

■鈴木茂三郎 社会運動家。戦前の闘いをふまえて、戦後、日本社会党左派の指導者になり、右派との統一を実現。

すずきもさぶろう

郡司千島探検1893 = 愛知県蒲郡で没落士族の人力車夫の四男に生まれる。

日清戦争始・1894 = 1歳：

教科書疑獄・1902 = 9歳：

日露戦争終・1905 = 12歳：

高等小学校卒業後、郷里で代用教員を務めた後、

上京して、新聞配達、牛乳配達、書生などして苦学をするうち、

大逆事件判決1911 = 18歳：

明治天皇没・1912 = 19歳：

大正政変・・1913 = 20歳：幼なじみと駆落ち結婚。早稲田大学専門部政経科2年に編入され、

21ヶ条要求・1915 = 22歳：卒業。

_{報知新聞}{大正日日新聞}の記者となるが、いずれもストライキの結果退職し、

大暴落・・・1920 = 27歳： 渡米、

原敬首相暗殺1921 = 28歳： 現地で猪俣津南雄と会い、在米日本社会主義者集団に参加、{読売新聞}記者としてソ連に入り、

水平社結成・1922 = 29歳： *極東民族大会に参加後、帰国。{読売新聞}に「労働露西亞の国寶として」を連載後、{東京日日新聞}記者となる一方、結党直後の日本共産党に入党。

関東大震災・1923 = 30歳： 社会主義運動の犠牲者を救う防援会を設立し、嶋中雄三・青野季吉らの政治問題研究会結成に参加。

円本時代始・1926 = 33歳： 雑誌{大衆}発刊の中心となり、次第に共産党と対立、

金融恐慌・・1927 = 34歳： 堺利彦、山川均らと雑誌{労働}を創刊、以後合法的左翼として活動。

共産党事件・1928 = 35歳： 妻に{鈴木書店}に任せ、_{東京日日新聞}を退社、著述業に入り、無産大衆党を結成して書記長に就任後、

世界恐慌・・1929 = 36歳：

満州事変・・1931 = 38歳： 満州事変では帝国主義戦争反対を主張したが、しだいに孤立し、

五一五事件・1932 = 39歳： 社会大衆党結成では役につけず、

国際連盟脱退1933 = 40歳： 日本経済研究所所長となり、

帝人疑獄事件1934 = 41歳： 「日本財閥論」、

芥川直木賞始1935 = 42歳： 「日本独占資本の解剖」などを刊行。

二二六事件・1936 = 43歳： 総選挙に際しての行動で社会大衆党を除名され、労働無産協議会を結成、

日中戦争始・1937 = 44歳： *日本無産党と改称して書記長となったが、人民戦線事件で検挙される。

健保+総動員 1938 = 45歳：

大政翼賛会・1940 = 47歳： 保釈出所したが、

日米開戦・・1941 = 48歳：

一・二審とも有罪となり、

敗戦・・・1945 = 52歳： 上告審の最中に敗戦、免訴となる。日本社会党の結成に参加し、左派の指導者となり、

新憲法公布・1946 = 53歳： *衆議院議員に当選、以後連続9回当選する。

新憲法施行・1947 = 54歳： 加藤勘十とともに、AP記者に共産党との絶縁声明を発表して話題になる。

極東裁判決・1948 = 55歳： 片山内閣に対して"党内野党"を宣言し、予算委員長として予算案を否決、内閣を辞職に追い込む。

三大事件・・1949 = 56歳：

朝鮮戦争始・1950 = 57歳： 社会党書記長、社会党第5回大会で指導権争いから左派・右派に分裂。左派は鈴木茂三郎書記長を、右派は片山哲委員長・水谷長三郎書記長を各選出、のち両派再統一。

独立回復・・1951 = 58歳： 講和問題で分裂後、左派社会党委員長となり、再軍備反対を訴えて同党を躍進させた。

55年体制始・1955 = 62歳： 統一した社会党の委員長となり、警職法に反対して岸首相に審議未了をのませる。

国連加盟・・1956 = 63歳：

安保闘争・・1960 = 67歳： 委員長を退任して、顧問となる。

全国総合計画1962 = 69歳： 社会党訪中使節団団長として、中国人民外交学会会長張奚若と共同声明、「米帝国主義は日中人民共同の敵」を確認。戦前からの社会主義文献を多く集めた"社会文庫"をつくって、

大学紛争始・1965 = 72歳：

いざなぎ景気1966 = 73歳： *政界を引退し、

大阪万博・・1970 = 77歳： 没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、